

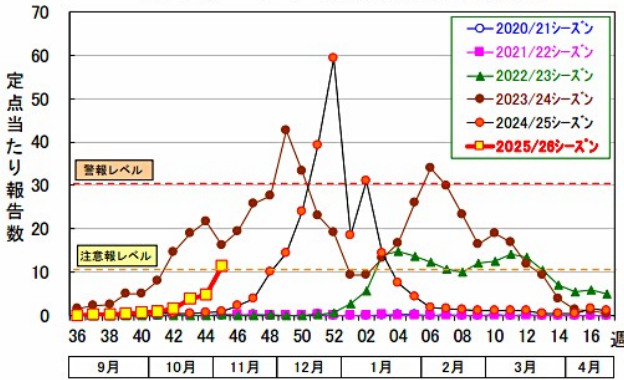
2025年第45週（11月3日～11月9日） 次回の会議：12月11日

1 インフルエンザ

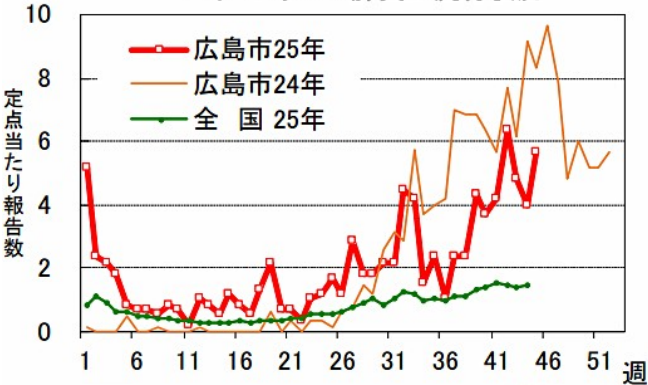
定点当たり 11.23 人の報告があり、注意報レベル（定点当たり 10.0 人）を上回りました。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が第45週に18件報告され、今シーズンの累計は30件となりました。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果（市内2か所の協力医療機関による） 第45週 A型：123人、B型：0人

インフルエンザの流行状況（広島市）



マイコプラズマ肺炎の流行状況



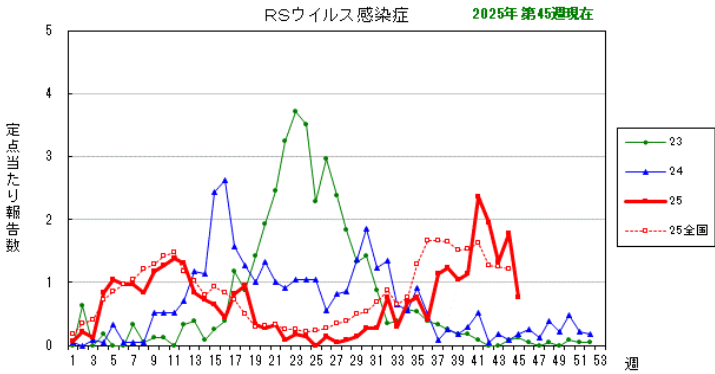
2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり 5.67 人の報告があり、多い状況が続いています。主な症状は、発熱や全身の倦怠感（だるさ）、頭痛、咳などで、咳は熱が下がった後も長期にわたって（3～4週間）続くのが特徴です。

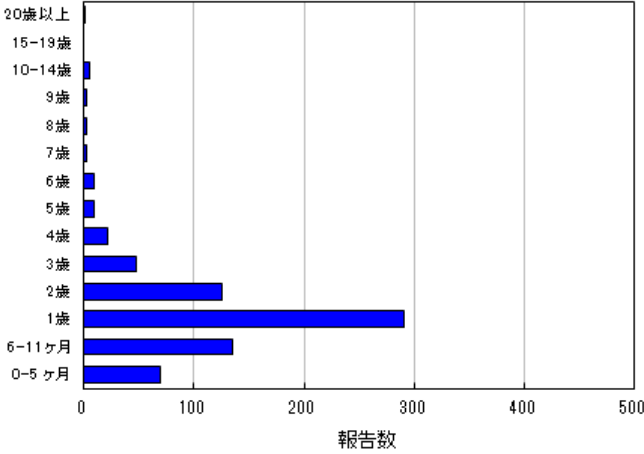
手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

3 RS ウィルス感染症

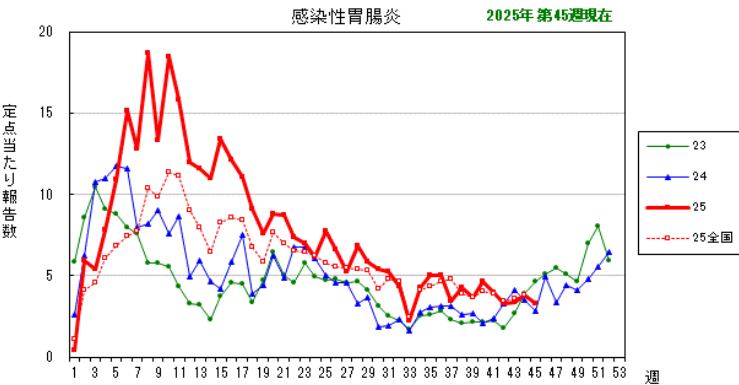
前回（第40週）に比べ依然、多い状態が続いています。



RSウイルス感染症 2025年累計（～第45週）



4 感染性胃腸炎



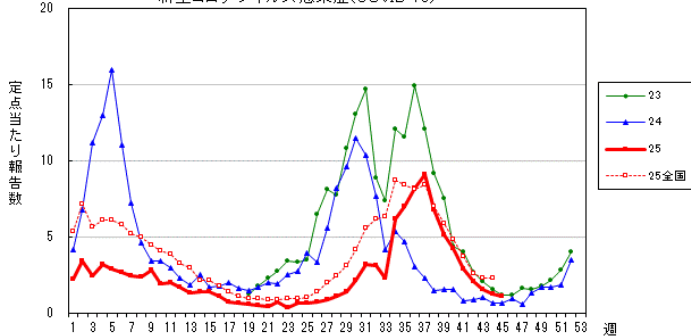
感染性胃腸炎の集団発生事例（今年度）

No	週	報告日	施設所在地	施設の種類(※)	病原体	有症者数
9	40	9月29日	安佐北区	医療機関	ノロウイルス	10
8	25	6月16日	中区	社会福祉施設	ノロウイルス	11
7	21	5月19日	安芸区	その他	不明	14
6	20	5月12日	安芸区	その他	不明	11
5	20	5月12日	佐伯区	その他	不明	29
4	17	4月21日	安佐南区	その他	ロタウイルス	77
3	16	4月15日	安佐南区	社会福祉施設	不明	16
2	15	4月10日	安佐北区	その他	ロタウイルス	36
1	15	4月8日	南区	高齢者関係施設	不明	10

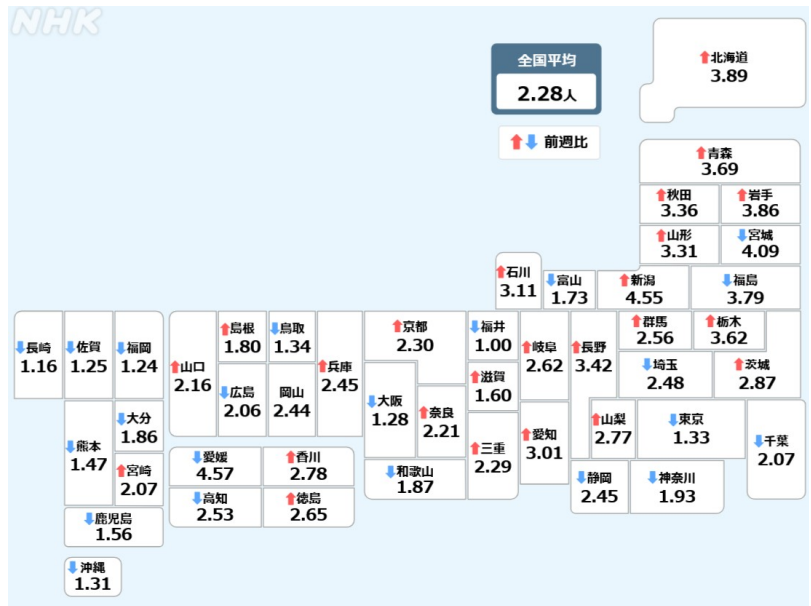
これまでは冬季に限定していましたが、本年度はそれ以外の季節での発生が多い様です

5 新型コロナウイルス感染症

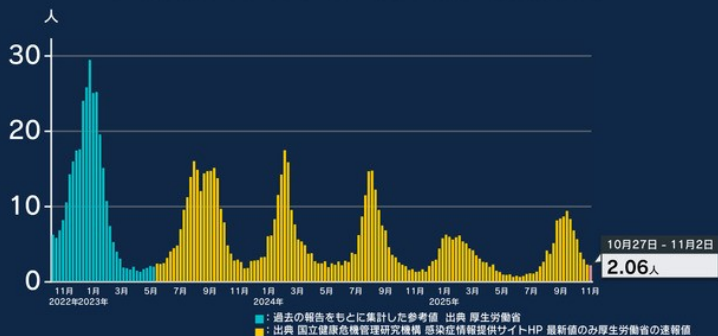
新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 2025年 第45週現在



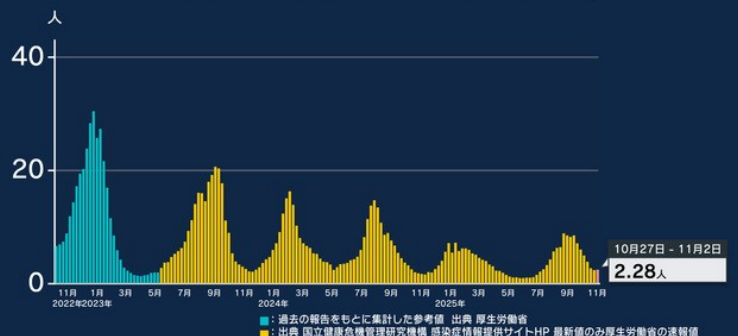
お盆の時期以降、一時的な感染者数の増加が見られました。



1 医療機関あたり平均患者数（広島県）



1 医療機関あたり平均患者数（全国）



・インフルエンザとコロナワクチンに関して

同ワクチンには下記の種類が販売されています。

数年前に登場したフルミスト点鼻薬は特に小児科で効果を発揮されているそうです。販売価格は以下の通り。

インフルエンザワクチン

- ・デンカ（販売：アステラス）
製品例：インフルエンザHAワクチン「生研」など（不活化・注射）。medical.mt-pharma.co.jp
- ・阪大微生物病研究会（BIKEN、販売：田辺三菱製薬）
製品例：「ビケンHA」「フルービックHA/同シリンジ」（不活化・注射）。KEGG
- ・KMバイオロジクス（販売：Meiji Seikaファルマ ほか）
製品例：インフルエンザHAワクチン（不活化・注射）。
- ・第一三共
製品例：フルミスト点鼻液（経鼻弱毒生ワクチン、販売：第一三共/ライセンス：アストラゼネカ系）。第一三共株式会社公式ウェブサイト
- ・サノフィ
製品例：エフルエルダ筋注（高用量HA、60歳以上、筋注）。sanofi.co.jp +1

コロナワクチン販売各社と価格

- ・モデルナ: 約12,019円
- ・第一三共: 約11,990円
- ・武田薬品（ノババックス）: 約11,990円
- ・明治製菓（レプリコンワクチン）: 約10,890円
- ・ファイザー: 非公表（推定1万～1万6,000円）

※ 市場流通は年により供給バランスが変わります。2025/26の総供給見込みは約5,293万回分（HA + 経鼻の合算換算）。厚生労働省

・コロナワクチンに関して

これまでは主にファイザー社製「コミナティ」、モデルナ社製「スパイクバックス」の mRNA ワクチンが用いられてきましたが、昨年末より扱えるワクチンが増えて、5種類のワクチンが扱えることになりました。新たに武田薬品から発売される「ヌバキソビッド」という名前のワクチンが追加されました。

「ヌバキソビッド」は、現在日本で使用できるコロナワクチンの中で、唯一「mRNA」を用いないワクチンです。ワクチンの種類としては「組み換えタンパクワクチン」と呼ばれるものです。

実はこのワクチンは2年前からノババックス社から発売されていたワクチンとして（細々とですが）すでに使用されていたものです。

今回、武田薬品がノババックスから技術移管を受けて、国内で製造したワクチンになります。

「組み換えタンパクワクチン」とは？

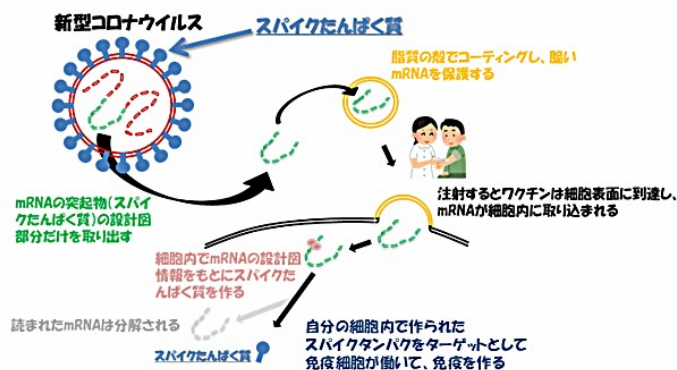
今回用いられている「組み換えタンパクワクチン」というのはどのような仕組みでしょうか？

「組み換えタンパクワクチン」は、ウイルス自体を使用せずに、ウイルスの一部（スパイクタンパクそのもの）だけを人工的に作り出して、それをワクチンとして利用する方法です。

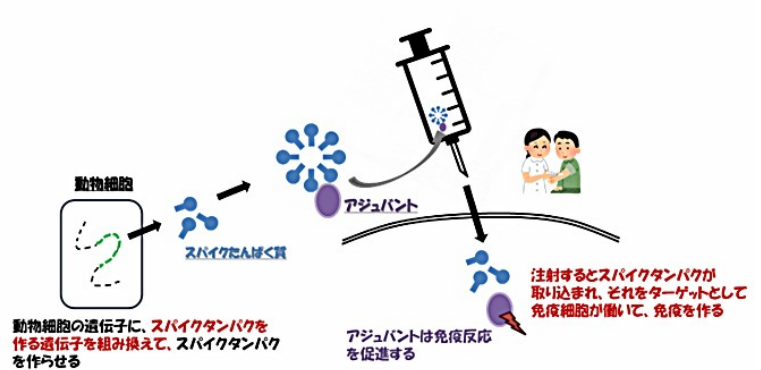
コロナウイルスは、ウイルスの表面にある「スパイクタンパク」が免疫反応の時の標的になります。

1. まずこのスパイクタンパクを作るための遺伝子情報を動物の細胞に組み込み（＝組み換え）ます。
2. するとこの細胞が「組み換えた」遺伝子情報を利用して、スパイクタンパクを作り出します（なので「組み換えタンパクワクチン」という名前がついているのです）。
3. 細胞が作ったスパイクタンパクを集め、不純物を取り除き、そこに免疫を起こさせやすくする仕組みを加えて（これを「アジュバント」と言います）ワクチンにしていきます。
4. 「アジュバント」を入れることによって免疫系がより強い反応を起こし、長期的な免疫記憶が作られやすくなります。

メッセンジャーRNAワクチン



組み換えタンパクワクチン



ワクチンにはこの「タンパク組み換えワクチン」、従来のコロナワクチンである「mRNA ワクチン」のほかに、弱らせた病原体をそのまま使用する「生ワクチン」、病原体そのものを利用するものの、その病原体に感染力や病原性を持たせないように処理をして使用する「不活化ワクチン」などがあります。

そのなかで、「組み換えタンパクワクチン」は、ウイルス自体を使用しないために、非常に安全性が高いというメリットがあります。

また、「mRNA ワクチン」は今回のコロナワクチンで初めて実用化された技術ですが、「組み換えタンパクワクチン」は、B型肝炎ワクチン、子宮頸がんワクチンなどですでに以前から実用化されていた技術で、作る際のノウハウがしっかりしている、効果や副反応の傾向が読みやすいというメリットもあります。

副反応も、mRNA ワクチンと比べてやや少ないのではとされています。